

聖書箇所:ピリピ人への手紙3章1~11節  
『キリストのゆえに』

【1】 主にあって喜びなさい

- ・ 一般的な喜び
  - 「良いことに会って非常に満足し、嬉しい（ありがたい）と思うこと」  
(三省堂『新明解国語辞典』)
- ・パウロの語る喜び
  - 「良いこと」に依存した喜びではなかった
  - パウロは喜ぶことを選んだ
  - 秘訣：主にあって目の前の出来事に向き合う (=信仰の目を持つ)
- ・ 試練の中で落ち込む時・悲しむ時
  - 主にあってそれらと向き合うと、その試練は私たちが成熟・成長へと向かわせる「信仰の試練」となる(1ペテロ 1:6~8)

【2】 喜びを奪い取られないように

- ・ 「犬ども」「悪い働き人」「肉体だけの割礼の者」(2節)とは？
  - 主にある恵みの福音を否定し、自分の行いが大切だと教える人達
- ・ 神の恵みに目を留める者にもたらされる主にある信仰の喜び
  - ↔神の恵みではなく自分の行いに頼るとき、喜びを保つのは困難

【3】 キリストに見出された者として

- ・ 主にある喜びは生き方や価値観を根底から変える
- ・ パウロのビフォーアフター
  - 「肉において頼れるところ」が「ちりあくた」へ
- ・ かつては「\_\_\_\_\_」を追求していたパウロ

↓  
「私(パウロ)が彼(キリスト)のうちに見出された」(直訳 3:9)ことを発見してから、  
↓  
今は「\_\_\_\_\_による義、すなわち、  
信仰に基づいて\_\_\_\_\_義を持つ」(3:9)者へと変えられた

▷キリストに捜してもらい、主に礼拝をささげる者とされたお一人お一人の今週の歩みが、主にあって喜びに溢れたものになりますように。

